浄住寺

浄住寺は自然の景観の美しさでよく知られており、石段の両側に植えられた紅葉の木々が鮮やかに色づく秋は、特に人気があります。境内に植えられた 2 種類の希少な竹（四方竹と亀甲竹）が、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。黄檗宗は禅宗の一派で、独特の建築様式が見られるのも特徴です。

歴史

浄住寺は、810 年に天台宗の僧である円仁（794 年～864 年）によって創建されたと伝えられています。その後、13 世紀半ばに公家の葉室家が浄住寺の支援を行って再建し、さらに 1689 年には黄檗宗の寺院として再建されました。黄檗宗は 17 世紀に中国から伝わった宗派で、寺院の建築や読経の様式、僧侶の法服には明王朝（1368 年～1644 年）文化の強い影響が見られます。

本堂

本堂は坐禅堂としても使われています。本尊は釈迦如来像で、床の間（書画をかけたり、置物などを飾ったりするため、和室の床を一段高くしたところ）の両側には他にも数体の仏像が安置されています。本堂の後方より位牌堂、開山堂、寿塔（生きているうちに建てられる塔婆）を直線的に配置した建築様式は、黄檗宗における典型的な様式です。

方丈

方丈の建物はかつて仙台藩の藩主、伊達綱村（1659 年～1719 年）が所有していた建物で、綱村は 2 歳でその地位を継承したため、警護人が隠れるスペースや幼児サイズの緊急脱出用の穴があります。方丈には、狩野永岳（1790 年～1867 年）の雲龍図屏風や、中国の風景を描いた襖などの作品が展示されています。縁側からは睡蓮が咲く池を眺めることができます。方丈はゴールデンウイーク（4 月末～5 月上旬）と秋の期間に一般公開されています。